社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL
恩賜財団 済生会横浜市東部病院

2021 年 10 月 29 日

プレスリリース

報道関係者各位

全国唯一の都市型地域医療介護連携ネットワークシステム「サルビアねっと」

住民同意数が 10,000 人、参加施設数は 100 を突破

～患者の医療情報を地域の医療・介護従事者間で共有する次世代の地域医療の姿へ～

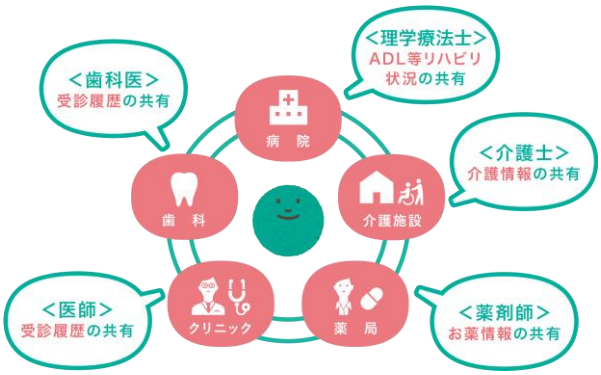
拝啓　ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院（神奈川県横浜市鶴見区　、以下　当院）の院長　三角隆彦が代表理事を務める『一般社団法人サルビアねっと協議会（当院内）』が実施する、全国で唯一実稼働している都市型地域医療介護連携ネットワークシステム「サルビアねっと」が、2021 年 9 月末時点で住民同意数 11,167 名、参加施設数 113 を超えたことをお知らせ致します。

横浜市では団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けた高齢化問題の対策として、都市部における ICT を活用した地域医療連携ネットワークの推進に必要な要件等を本市独自のガイドライン「横浜市における ICT を活用した地域医療介護連携ネットワーク構築ガイドライン」として公表されました。そのガイドラインを満たす電子カルテ等の医療情報を地域の医療・介護従事者間で共有する全国初の仕組みとして鶴見区がモデルケースとして選ばれ、総務省と横浜市の補助金を得て 2019 年 3 月 27 日より「サルビアねっと」が運用開始しました。

「サルビアねっと」では患者さんの情報を地域の関係機関で双方向に共有することで、病院に来院される前の診療履歴・既往歴等を把握し、紹介・逆紹介を行うことが可能となります。また、自施設情報だけでなく他施設の病名、処方、検査結果、画像情報などを時系列で把握することもできます。今後、参加している住民については病院内情報だけでなく薬局等を含めた地域の関係施設間で情報を共有し、医療や介護の現場で円滑に活用していくことが期待されています。

鶴見区から始まったこの「サルビアねっと」は、2020 年度に神奈川県の補助事業として採択され、その後神奈川区へ拡大し、現在は横浜市全域および川崎市への展開に向けて、大変発展的なサービスに成長しました。今後、「未病から後病」をテーマに、神奈川県および慶応義塾大学の各プロジェクトへの参画・連携もスタートいたします。

ぜひこの機会にご取材をご検討いただけますと有難く存じます。



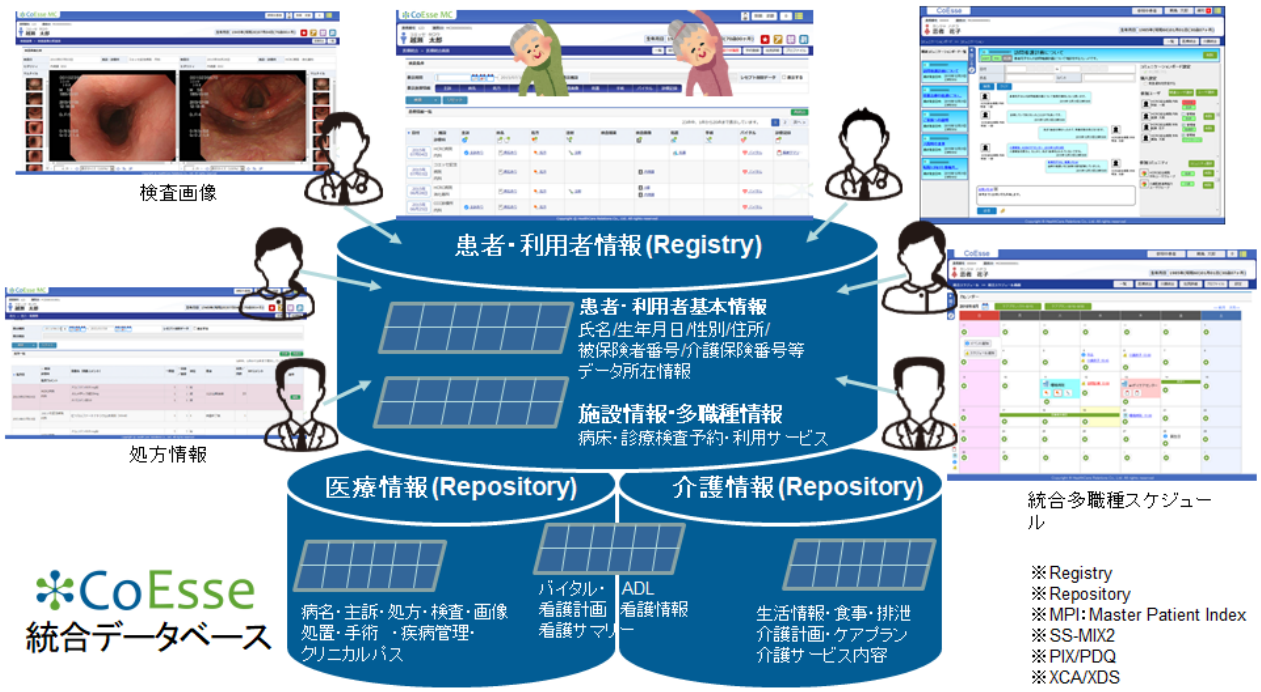
＜本件についてのお問い合わせ先＞

済生会横浜市東部病院　広報推進室　担当：今野・荒木

電話：045-576-3000　Email：koho@tobu.saiseikai.or.jp

【「サルビアねっと」に参加するメリット】

- 薬履歴がわかるため、飲みあわせがよくない薬の処方や**重複処方を防げます**。
- **離れて暮らす親の受診時**に、本人が伝えられなくても正確な情報を施設間で確認できます。
- 救急搬送されたとき、**一刻を争う状態のとき**に病歴やアレルギー情報がすぐに分かります。
- **緊急時や災害時**には特に効果的な情報ツールとなります。



【行政の関わり】

2018 年度　横浜市医療局「横浜市EHR構築支援補助事業の交付対象事業」に指定

2018 年度　総務省「情報通信技術利活用事業費補助金（地域 IoT 実装推進事業）」に指定

＜本件についてのお問い合わせ先＞

済生会横浜市東部病院　広報推進室　担当：今野・荒木

電話：045-576-3000　Email：koho@tobu.saiseikai.or.jp